

# 公益信託ENEOS水素基金 第13回助成金贈呈式を開催

JXTG エネルギーは、2006 年より「公益信託 ENEOS 水素基金」を通じて水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行っている。年間総額約 5,000 万円（1 件当たりの上限は 1,000 万円）を約 30 年にわたり安定的、継続的に助成することで、水素エネルギーによるサステナブルな社会の早期実現を目指している。今年度は、50 件の応募の中から運営委員による書類審査とプレゼン審査の結果、6 件のテーマが採択された。

11 月 6 日に行われた助成金贈呈式では、委託者である JXTG エネルギーの大田社長から助成対象者に対し、「本基金の助成を最大限に活用して、独創性・革新性に溢れる研究成果を生み出し、持続可能な社会づくりに貢献していただきたい」とのあいさつがあった。また、堂免一成運営委員長（東京大学大学院教授）から、「基金を有効に使っていただき、またその成果をスタート台にして、さらに将来的に社会のためになる研究につなげていただければと思う」との激励のメッセージが贈られた後、目録が贈呈された。

（中央技術研究所 技術戦略室 技術戦略グループ 宇賀神 拓也）

## 2018 年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	色素・触媒界面にキャリア集約ナノ薄膜を形成させた水分解色素増感光電気化学セルの開発 小林 厚志（北海道大学 大学院理学研究院 化学部門 錯体化学研究室 准教授）
	ミリ波加熱作動による高効率・オンデマンド高温水蒸気電解 岸本 昭（岡山大学大学院 自然科学研究科 応用化学専攻 教授）
	有機層状化合物のはく離ナノシートを用いた省資源・低コスト・高効率な水素発生電極触媒の開発 緒明 佑哉（慶應義塾大学 理工学部 応用化学科 准教授）
水素貯蔵・輸送に関する技術	（対象者なし）
CO <sub>2</sub> 固定化・削減技術	高効率二酸化炭素還元を目指したシングルナノメートル多元系遷移金属酸化物電極触媒の創製 辻 悦司（鳥取大学大学院工学研究科 化学・生物応用工学専攻 講師）
	ポルフィリンナノ空間に内包された金属錯体が関与する CO <sub>2</sub> 還元触媒反応 倉持 悠輔（東京理科大学 理学部第二部 化学科 助教）
	ガス拡散電極と光アノード電極を用いた CO <sub>2</sub> 連続還元システム開発 横野 照尚（九州工業大学 大学院工学研究院 物質工学研究系 教授）



2017 年度、2018 年度助成対象者および ENEOS 水素基金関係者  
（前列左から 4 番目：大田社長，5 番目：堂免委員長）